

エネルギー・環境分野における 海外広報、国際展開について

**2020年9月8日
経済産業省 産業技術環境局
環境政策課**

グリーンイノベーション・サミット（2019年10月9日開催）

- 温暖化対策に関連する3つの国際会議を日本で集中して開催し、その成果を総理官邸で集約する「グリーンイノベーション・サミット」を開催した。
- 世界の産業界、金融界、研究者のトップが、非連続な環境イノベーションを加速化していくことにコミットした。

TCFDサミット (Taskforce on Climate-related Financial Disclosure)

ピーター・バッカー WBCSD代表兼CEO

マーク・カーニー イングランド銀行総裁

水野 弘道 PRI理事、GPIF理事兼CIO 等

ICEF (Innovation for Cool Earth Forum)

田中 伸男 運営委員長（元IEA事務局長）

デービッド・サンダロー 運営委員（元米国DoE次官）

RD20 (G20各国の研究機関の集まり)

中鉢 良治 議長（産業技術総合研究所理事長）

ライムンド・ノイゲバウアー フラウンホーファー研究機構理事長
等



内閣総理大臣、経済産業大臣、文部科学大臣、環境大臣

ジャパンパビリオンにおける「イノベーションによる解決」のメッセージ

- COP25全体の議論では「野心引き上げ」や「脱石炭」が大きな注目を浴びたところ、イノベーションや産業界の取組をいかにアピールするかが課題。
- 我が国は、これまでもCCSや水素などの具体的なイノベーションの取組をジャパンパビリオンでアピールしてきたところ、国際的な機運醸成のためにも、アライアンス構築等により、日本のイニシアティブをCOP26における発信に繋げていく。



水素、高効率タービン等展示



風力発電等展示



CCSに対する海外テレビインタビュー



NEDO ICEFサイドイベント



経団連・GISPRI イノベーションチャレンジイベント

ゼロエミッション・イニシアティブズ

- 今年10月には、昨年に引き続いて、各種のエネルギー・環境関連の国際会議を、日本が主催。
(新型コロナを踏まえ、原則、WEBで開催。渡航制限が解除されれば、一部の登壇者が訪日)
- これら一連の国際会議で、「革新的環境イノベーション戦略」の推進体制や進捗状況を報告するとともに、新たな国際連携プロジェクトが生み出されれば、戦略に反映していく。

9月 **グリーンイノベーション戦略推進会議**
(関連施策の状況、研究開発の方向性)



10月

ICEF	RD20	TCFDサミット	水素閣僚会議	カーボンリサイクル 産学官国際会議
約70国・地域、1000人以上の有識者が、技術イノベーションによる気候変動対策を議論。	G20の研究機関リーダーが集まり、共同研究などの連携を強化する国際会合。	世界の投資家・金融機関、企業のリーダーを集めて、投資・開示の対話を促す国際会合。	水素の利活用に関心を持つ国・地域・機関等が参加する閣僚会議。	カーボンリサイクルに関する取組や最新の知見、連携の可能性を確認する国際会合。
今年は「イノベ戦略」を軸にしてテーマ設定	GZR（ゼロエミ国際研究センター）が中心に	ゼロエミ・チャレンジ発信による民間資金の呼び込み	水素イノベーションの各国との進捗共有	大崎上島や苫小牧などの実証の推進

ゼロエミッション・イニシアティブズ

海外広報Webサイトによる国際発信

- 戦略推進会議における成果は、英語Webサイトにおいて国際的にも発信。



英語Webサイト

METI
Ministry of Economy, Trade and Industry

Contact Us | Japanese | Site Map | Main Content | Font size [S] [M] [L] | Easy Web Browsing

News Releases | Speeches | Statistics | Policies | About METI

Home > Policies > Policy Index > Japan's Path to Zero Carbon [Japanese] [Print]

Japan's Roadmap to "Beyond-Zero" Carbon

ANNOUNCEMENTS | REPORTS



The world's first liquefied hydrogen carrier launched

Latest News

June 30, 2020 [Icon] Japan Business Federation launches "Challenge Zero"

June 6, 2020 [Icon] Japan's efforts toward the utilization of hydrogen energy bearing fruit

Key Milestones on Japan's Roadmap

Japan's roadmap to tackle the challenge of man-made climate change is bold and ambitious.

It is marked by three key milestones.

Firstly, Japan's commitment under the United Nations Climate Change Convention to reduce greenhouse gas (GHG) emissions by **26%** from 2013 levels by **2030**.

The second milestone is to promote the development of innovative technologies that enable Japan to reduce its GHG emissions by **80%** by 2050 and also contribute to the reduction in accumulated atmospheric CO₂ globally to "Beyond

The third milestone, and ultimate goal, is to realize a "decarbonized society", supporting carbon neutrality throughout the world, as early as possible in the **second half of this century**.

Approach

Japan's approach is based on three key principles



Promote Innovation & Technology as the agents of change in tackling the challenges of global warming.



Promote Green Finance to support the development of innovation and new technologies.



Support greater International Cooperation for business-led adoption of innovative green technologies.

Japan's Scorecard

Japan is currently on track to meet the first milestone in its roadmap to become a decarbonized society.

3.9%

Fall in GHG emissions in FY 2019

Bringing Japan's annual GHG emissions to a record low since emissions tracking began three decades ago.

5

Straight years of lower emissions

Driven by a steady expansion of renewable energy sources as well as energy-saving technological innovations.

12%

Down from benchmark year of FY2013

Putting Japan well on track to achieve the first GHG emission milestone of "meeting its target" for 2030.

2nd

Biggest reduction among all G20 countries.

Lagging only the United Kingdom among the world's largest economies.

Help | FAQ | Links | Terms of Use | Legal | Privacy Policy

Ministry of Economy, Trade and Industry (JCN 4000012090001)
1-3-1 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8001, Japan Tel: +61-(0)3-3501-1511
*Note: In this site, JCN, abbreviation of Japan Corporate Number, means numbers to identify a specific individual in the administrative procedure.
Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

国際展開の促進（CEFIA）

- 我が国の低炭素技術により世界全体のカーボンニュートラルを実現すべく、特に成長に伴うエネルギー需要の伸びが著しいASEAN地域のエネルギー転換と低炭素化社会の実現を目指す官民イニシアティブとしてCEFIAを立ち上げ。
- ①低炭素技術、②ファイナンス、③制度構築の3要素を通じて、アジアにおけるエネルギー関連ビジネスの環境整備を促進。フラッグシッププロジェクトを通じ、ASEANエネルギー協力行動計画の目標達成への貢献。これに向けて、関係機関との連携拡大やフラッグシッププロジェクト活動を推進。第2回CEFIAフォーラムにおいて進捗を共有予定。

CEFIAの3要素

ファイナンス

プロジェクトを拡大、発展させるための積極的なグリーンファイナンス獲得を目指す。

低炭素技術

低炭素技術の導入を支援し、エネルギー転換と低炭素社会を実現。



制度

関連する制度を整備することで、低炭素技術の普及展開を加速。



CEFIA
Cleaner Energy
Future Initiative
for ASEAN
ASEAN+3

フラッグシッププロジェクトの推進

ZEB	・ 設備・部材のみならず、設計・施工、維持管理、IoTを活用したエネマネ・システム等多様なビジネスを創出するため、 ZEB基準の策定、ZEB専門家(ZEBプランナー)の育成 等を推進。
エネマネ	・ 産官学連携によるIoT制御技術(RENKEI)を活用した工場の管理最適化(スマートファクトリー)、地域の低炭素化(スマートコミュニティ)を実現するため、 エネマネ促進・IoT制御に関する制度構築、ノウハウの横展開、キャパビル を推進。
マイクログリッド	・ 離島等ローカル地域における電化を促進するため、台風に強い小型風力発電、太陽光発電、ディーゼル発電、蓄電、エネマネ・システムを統合した 分散型マイクログリッドの普及を推進するとともに、許認可手続の簡素化 の提案。
FinTech	・ 交通部門の低炭素化を促進するため、車両走行データ、CO2削減量及び融資の返済状況を可視化するIoTデバイス(FinTech)を活用し、 EV等低公害型車両の購入・買換えを促進策の導入 を提案。

国際展開の促進（CCUS）

- 革新的技術の一つであるCCUSは、アジア各国で100億トン以上の貯留ポテンシャルがあるものの政策・制度整備が進んでいない。アジアの脱炭素化のためには、CCUSの環境整備を進め、技術・経験を共有していくことが不可欠。
- JCM（二国間クレジット制度）を活用した、大規模日尼共同CCUSプロジェクト(Gundihガス田など)に向け調査開始。
- 我が国のCCUS技術の知見の共有とアジアへのCCUS普及を目的としたJapan-Asia CCUS Forumを本年10月に開催予定。今年中にも、ASEAN全域へのCCUS展開を見据え、アジアのCCUSネットワーク構築を予定。

アジアの貯留ポテンシャル



※単位は10億tonCO2
(GCCSI調査)

アジアのCCUSネットワーク

